

2018年8月7日

ジャカルタジャパンクラブ  
会員各位

ジャカルタジャパンクラブ  
海外邦人安全対策連絡協議会

### 又平領事部長冒頭挨拶

前回の協議会では、(2015年邦人被害事件のご家族である)西村夫妻の講演会を開催し、同夫妻には喜んでもらえた。我々にとっても学びの多い貴重な機会になったと思う。協議会は、時代の流れにより適切なテーマを選定するなど、運営方法を変えながら、邦人へ適切な情報提供が出来ればと思うので、引き続き協力をお願いしたい。

### 最近の政治情勢・治安情勢

政治面では、8月4日から正副大統領の立候補者の登録を開始し、8月10日までの1週間が受付期間。2019年4月の大統領選に向けた一連の動きではあるものの、現時点では登録者は無い状況。

2014年に行われた大統領選と同様に、ジョコウィ現大統領とプラボウォ氏の一騎打ちの可能性が高い。しかし、第3候補者が消えたわけではなく、全く予想しない候補者が出る可能性もある。

今回の大統領選の争点は副大統領候補であり、ジョコウィ現大統領は、誰を選ぶかはまだ分からない。一方、プラボウォ氏陣営は、ユドヨノ前大統領が党首を務める民主党と連立を組むと言うことから、以前に比べて複雑化している。従前は、議席数の少ない政党から候補者を選ぶと言われていたが、4番目に大きい民主党から、ユドヨノ前大統領の長男のアグス氏を擁立することで、どうなるのか分からない状況。

また、もう一つのポイントは、カッラ現副大統領が、再度、副大統領として出馬できるのかがポイント。現行の憲法ならびに選挙法では、大統領ならびに副大統領は、連続または非連続であっても、3期目の就任はできないとの解釈。現在、カッラ現副大統領は、2期目の就任が終わる段階であり、憲法裁判所に申し立てしているが、3期目も出馬が出来るのならば、カッラ現副大統領がジョコウィ現大統領とペアを組むのではないかとされている。憲法裁判所の判断が出るかどうかポイントとなるが、その裁判所の判断も出ない可能性もある。

ジョコウィ現大統領の今回の選挙戦では、どの程度の自分の基盤を上乗せできるのかがポイント。ジャワ島以外の地域とイスラム団体の集票ができる候補者とペアを組みたいが、カッラ副大統領は条件を満たす。

治安面では、5月にスラバヤでテロ事件が起きた。以降、テロ対策法が改正されて予防的措置を取る事が出来るようになったため、目立った動きはないものの、これまでに200名以上の逮捕者、20名以上が摘発の過程で射殺されている。8月にも20名以上が摘発されている。国家警察は、アジア大会に向けて4,000名以上の動員を掛けて治安維持を宣言しているが、現在でも200名以上の逮捕者を鑑みれば、十分に注意する必要がある。今後は、外務本省からの治安に関するスポット情報を発出する予定。

## 邦人に関わる最近の事件・事故報告

前回の協議会からの邦人に掛かる事件・事故の報告は無し。

直近では、8件テロの摘発が行われている。

ボゴールでテロ犯が逮捕されたが、JJSから直線で4キロの距離。

大規模集会については、10日の金曜日に、大統領選の候補者登録に関連して、選挙委員会事務所前において予定あり。既に、集会の届出はあるが実施するかどうか、注視する必要がある。他の地域では、政党関係者の自宅に火炎瓶が2本投げ込まれる事件が発生している。

アジア大会では、警察関係からの危険情報は無し。

交通関係では、自転車レーンが出来るといわれており、また、高速道路の出入り口開閉も流動的な状況である。また、アジア大会終了後は、NOによる交通規制の解除を予定しているが、アジアパラ大会もあるので流動的な対応になると思われる。

### (領事部から補足)

8月5日のロンボク島地震については、M7を記録。国家防災庁の発表では、98名死亡、236名負傷、被害者数1,000名。家屋倒壊などで発見されていない方もいる可能性が高く、被害者がさらに増える見込み。

邦人被害は、1名が負傷（軽傷）しており、担当領事が面会をして支援を行っている。デンパサール総領事館には対策本部を設置。8月6日に河野外務大臣からルトノ外務大臣に対して全面支援を表明。

改訂されたインドネシアの海外危険情報は近日中にメール配信する。インドネシアの危険レベルは現状維持。パプア州の一部は分離独立の動きがあること、また、スラウェシ州ポソ県については、現在は沈静化しているが、イスラム過激派の拠点であり、2016年7月にリーダー（サントソ）が射殺されたが、依然として残党が潜伏しているため、レベル2を継続。また、ジャカルタ、バリ島を含むその他の地域もレベル1を継続。

また、アジア大会関連では、邦人観戦者、在留邦人の安全確保のため、ジャカルタ、パレンバン、ブカシの警察、入管当局、また医療機関と協議を実施し、情報収集、緊急連絡体制の構築を行った。大使館HPにアジア大会の専用ページを立ち上げる。在留邦人の生活にも影響が大きい交通情報については、関係当局に確認しているが、直前にならなければ、正しい情報が案内出来ない可能性が高い。

外務省では「たびレジ」登録を推進しており、8月は登録キャンペーン実施中。毎年夏には200～300万人が海外に渡航する。本年はよしもと芸人のケンコーコバヤシ氏（通称ケンコバ）が登録推進大臣に任命された。河野外務大臣からケンコバには夏休みの宿題が出されていて、「たびレジ」登録者数、またLINE、Twitter、Facebook等のSNSリアクション数に応じて書記官から大使まで昇進する。現在の登録者数は約16万人で参事官。公使になるには30万、大使になるには50万の登録が必要。「たびレジ」の簡易登録は2～3分程度で登録が完了する。ご自身のみならず、家族、社員等の旅先での安全確保のためにも積極的な登録をお願いしたい。

## 参加者からの報告

1) ロンボク地震では、バリに設置している事業会社の支店オフィスで、建物が破損し被害が出ているが、人的被害はなし。

2) スカルノハッタ空港の第3ターミナルへの移転については、10月末以降の予定。

3) アジア大会時の交通情報について、大会が始まると、毎朝に各々の道路の通行が可能かどうか、通知が来るような仕組みなのか。

(大使館)

主要道路は、1日15時間(6時から21時まで)の「奇数偶数ナンバープレート」規制が拡大されている。8月2日から全面施行となっている。州警察や運輸省首都交通管理局などにも問合せしているが更新情報が出てこない状況。

4) 警察からは、アジア大会開催期間中に、混雑状況を鑑みて、競技場駐車場へのアクセスを制限する交通規制を行うと言われている。そのため、競技場の近くを通行する場合は注意が必要。

また、アジア大会やJJMなどの人ごみには、スリなどの軽犯罪が多くなるため、注意が必要。

(大使館)

8月2日以降の本格的な「奇数偶数ナンバープレート」規制開始後は、交通違反者が増えている。

5) 7月に2件の火災事故が起こったが、工場での火災訓練を行っていたこともあり、直ぐに沈静化。大きな事故にならずに済んだ良い事例である。普段の訓練が重要である。

6) ロンボク島の地震後の状況については、空港は通常通り稼働しているが、予定より早く島を出たい人が空港に多く集まっていると聞いている。バリ島に関して現地旅行会社に確認したところ、空港や主な観光地は特に大きな混乱はなく、平穏であると報告を受けている。

7) 旅レジの登録方法で期間の登録があるが、わかりにくいので教えてもらいたい。

(大使館)

簡易登録の場合でも配信期限の設定をすることが出来る。また、国・地域選択では、インドネシア内にある全ての在外公館のメールを受け取る事も出来る。本登録では旅行日程や滞在先の情報も登録するため、在外公館からもコンタクトが可能となる。いずれにしても、ご自身とご家族、そして社員の安全のためにも、「たびレジ」登録をお願いしたい。

8) アチェの地震の際には医薬品関連業界で連携して医薬品を被災地に提供した。

9) 前回 2016 年のアチェの地震の際には、日系企業から義捐金を募った経緯があるため、今回のロンボク島地震でも同様の対応をするかどうか確認し、必要であれば会員企業に義捐金の募集を呼びかける。

(以上)